

科学哲学・科学思想史 第1回 (2016.10.04.)

Q.1 第2外国語はフランス語でした。(もう1年以上フランス語をやっていないので、ほとんど忘れてしまいました)

今は倫理学専攻なのでドイツ語を少しやってます。オランダ語、というのは全く未知の言語なので少し気になります。

この講義をとったのは、専門科目の単位として必要だからです。

(たぶん、ほんとうは2年後期にとるべきだったのですが、冬の1コマが嫌だったので。笑)

A.1 せっかく学んだフランス語ですから、ドイツ語と並行して、自分が興味をもてるフランス語の文献を自分で読み続けることを勧めます。

今はまだ暖かいですが、冬の1コマは、趣があります。「ふゆはつとめて」ですから。

Q.2 赤井先生はどんな夏を過ごしましたか。

ギリシアのことを Hellas と呼ぶのは神話由来ですか？

A.2 この夏は、学生のとくに、中国哲学史の講読(山下龍二先生)で少し垣間みた、荻生徂徠の『論語微』を、小川環樹先生の書き下し(東洋文庫)で読み、そこうするうち、小川環樹先生が解説を書かれた、『内藤湖南』(日本の名著)の「先哲の学問」を読みました。それで、どうも、富永仲基の『出定後語』が気になっているけれども、後期の授業が始まってしまって、まだ、とりかかれないうち、というところでしょうか。(笑)

「ヘラス」については、ギリシア語の辞書の語義の順によると、地域名としてしての「ヘラス」のほうが先で、後で、都市名に女神の名前に由来するものが生じたように書いてあります。気になるなら、例えば、Liddell and Scott の *A Greek-English Lexicon* (大辞典) の *Ἑλλάς* の項目を読んで下さい。哲学の研究室にあります。

Q.3 (学んだ、学んでいることば) 英語、ドイツ語、サンスクリット語、ベトナム語。

以前は哲学・思想系コースの4分野で論理学を開講していたとおっしゃっていましたが、倫理の先生が途中でやめた理由は何でしょうか。何かの負担があったのでしょうか。

A.3 機会があれば、ベトナムの言葉を教えて下さい。

論理学を専門にやっている人がいない、ということと、何より、授業科目に「論理学」がなくてもよい、と判断されたからではないでしょうか。それ以上のことは私には分かりません。

Q.4 赤井先生の授業は初めて受講しました。

英語とドイツ語を勉強したことがあります。

科学思想史を通史的に追う授業だと思っていましたが、違ったものだったようです。初めはそのつもりで履修登録しました。

自分の知識不足と言われればそれまでですが、もう少し噛み砕いた説明をしていただけるとありがたいです。

A.4 科学思想史を通史的に扱おうとすると、半年、15回の授業では、難しいので、通史的なことは、日本語で読める以下の書物を読んでおいて下さい。

・坂本賢三, 1984, 『科学思想史』(岩波全書 339), 岩波書店。(西洋古代・中世・近現代にわたる)

・小林道夫, 1996, 『科学哲学』(哲学教科書シリーズ), 産業図書。(近現代の物理学が中心)

・伊勢田哲治・須藤靖, 2013, 『科学を語るとはどういうことか 科学者、哲学者にモノ申す』, 河出ブックス。(授業で扱う「自然の法則」との関係では、特に, p. 213 「何を前提として科学を捉えるか」以降)

Q.5 自分は英語とドイツ語を学んでいました。

自分はすぐに物事を理解できる人間ではないですが、授業についていけるようがんばります。

よろしくお願ひします。

この授業を受けようと思った理由は、火曜のこの時間が空いていて、単位が必要だったからです。

A. 5 こちらこそ、よろしくお願ひします。

Q. 6 先生が体調が悪くならないようなレポートを心がけたいです。

5 なぜこの授業は文学部で行われないのかが気になりました。
教育学部と何か関係があるのですか。

A. 6 レポート、期待しています。

この教室は、教育学部の建物の一部ですが、管理や所属は文学研究科・文学部のものです（ですから、教育学部の教室を借りて、文学部の授業をやっているわけではありません）。地理的・空間的に隔たりがありますが、イギリスが、大ブリテン島の他に、アイルランドの一部もイギリスになっているような感じでしょうか。そうすると、問題は、何故、赤井の授業が、文学部の建物内で行なわれないで、文学部の一部ではあるけれども、離れたところで行なわれるのか、ということになります。答える人の立場によって、いろいろな答がありえるでしょう。

Q. 7 第二外国語はドイツ語、漢文、ラテン語、サンスクリット語の講義は一回ずつ受けましたが、ラテン語、サンスクリット語はほとんどできません。

この授業は専門科目の単位が欲しくて受講しました。

Q. 7' 英語、ドイツ語を勉強しました。

哲学系の単位が必要なので取りました。

A. 7, 7' 何か、わからないことがあれば、口頭でも、質問用紙でも、質問して下さい。

20 Q. 8 哲学系の講義を受けるのは初めてですが、興味関心があり講義に参加させていただきたいと思います。

英語に関しては専門ですので、基本的には読むことができます。

第二外国語は仏語で、現在独学で学んでおりますが、仏検定準二級程度です。

哲学に興味を持ったのは、英語教育の教員の一人である、柳瀬陽介先生が哲学に幅広く興味を持たれており、お話をさせていただく中で自分も興味を持ちました。とくに興味があるのはフッサールの現象学ですが、科学哲学・科学思想史にも興味があります。

事前知識もほとんど無い、無学ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

A. 8 こちらこそよろしくお願ひいたします。

科学哲学・科学思想史 第2回 (2016.10.11.)

Q. 1 哲学は興味のある学問なので頑張ります。

Q. 1' 頑張ります。

A. 1 そうしてください。

5 Q. 2 コメントで荻生徂徠を読んだとありましたが、何か興味深い部分はありましたか？ あつたら教えて下さい。

A. 2 徂徠は中国語（というか漢文）で書いているので、私が読んでいるのは、その、口語訳ですから、原典に基づいてはなんとも言えませんが、徂徠は当時の中国語の発音がわからなかったので、来日した中国人とは、筆談で意思の疎通をはかっていることです。

10 Q. 3 赤井先生がアリストテレスの研究を始めたきっかけは何ですか？

A. 3 私が在学当時の高校の図書室には、岩波の『プラトン全集』はありましたが、『アリストテレス全集』はなく、全集でないものが、単独で何冊か（たぶん、『形而上学』とか『ニコマコス倫理学』とか）あつただけで、大学へ入ってから、丸善（洋書部）で、プラトンは置いてなかったのに、ギリシア語原典で、アリストテレスのは置いてあつた（『カテゴリー・命題論』、『ニコマコス倫理学』など）ので、それらを買って、自分で読み始めたのが最初だつたと思います（大学1年のとき）。西洋哲学史全体（古代・中世・近現代）に与えた影響からいって、プラトンとアリストテレスは双璧だと思つていたので、プラトンとアリストテレスは原典で読んでおかなければならないと意識して、最初に、自分で入手できたのがアリストテレスのものだつたということかもしれません（今から考えれば、自分で買えなくても、図書館で借りればよいことですから）

20 Q. 4 赤井先生は複数の言語で文献を読むことに長けていらっしゃいますが、今現在文学部の学生で同じように複数の言語を身に付けている方は多いのでしょうか？

A. 4 私は広島大学の出身ではないので、自分が学んだ大学の学生・院生のことしか、体験的にはわかりませんが、みんなそれぞれの研究の必要に応じて、何か国語かやっていたように思います。また、現在の私の授業では、「身に付けている」の程度によりますが、複数の言語を読まざるを得ない、私の演習や読書会に出ている院生たち（哲学、比較日本文化学、西洋史）は、いやでも読んでいます。（読み出すと、読む必要が実感できて、楽しいのですが）

30 Q. 5 サンスクリットを和訳すると「梵語」とのことでした。「梵我一如」なんかの語にもこの「梵」の漢字が使われていますよね。この「梵」の意味について予想（妄想）していたのですが、「世界」のような意味（「世界語」、「世界と一体になる」）か、「理」のような意味（「理について語るための語」、「理と合一する」）のどちらが近いでしょうか。（どっちも的外れ？）

A. 5 どちらでもあるし、どちらでもないでしょう。というのは、「サンスクリット」という表現自体は「完成された言語」という意味でしょうが、それは、「ブラーフマン（梵）」によって作られたと解釈して、漢字では「梵語」と意識しているだけだからです。

35 Q. 6 幼い頃、祖母の家にツバメの巣があり、親がかんだえさを子どもに与えていました。私はツバメではありませんが、原典を読み自分の頭で考えるくせをつけたいです。

善光寺（Zenkoji-Temple）と Sanskrit（サンスクリット語）は、似ています。

A. 6 ミラノのオペラ・ハウス「スカラ座」は、Teatro a la Scalaなので、あくまでも「スカラ」座なのですが、日本の某映画館が、「スカラザ」劇場と称していたのも、これに似ていますね（「スカラ劇場」劇場になる）。シェイクスピアが率いていた一座は、たしか、The Theatre（ザ・シアター）と称していたと思いますから、これだけですでに「劇場」ですが、まさか「劇場」座とか「劇場」劇場と訳すわけではないでしょう。

Q. 7 「哲学者自身の著作を読まずに、彼らの学説のいろいろな解説あるいは一般に哲学の歴史といわれるものを読むということは、あたかも食物をだれかほかの人にかんでもらうようなも

のである」というショーペンハウアーの陳述は、耳が痛かった。高校の時の倫理の授業で少し「哲学」をかじった気持ちになっていた自分を恥じた。自分は哲学コースではないが、原典を研究しようとしている哲学コースの学部生・教員の方の気持ちが少し理解できた。

Q.7 研究をするにあたって、原文をよむことや、いろいろな思想家の考えにふれることはとても重要なことだと思いました。自分も今後研究をする時には、今日学んだことを意識して研究したいです。

Q.7 外国の文献を直接読むことは著者の主張を理解するのに大事だと思いましたが、母国語である以上（ママ、自分が親しんでいるのは母国語で、読んで理解しようとするのが異国語である以上、という意味か？）、異国語の細かいニュアンスを理解することがまず難しそうだと思います。

A.7,7,7 母国語ではない言葉で書かれた文献を、大学で研究する以上、難しかろうがどうだろうが、やらなければ、大学で学ぶ意味はありません（と、言っておきましょう）。やらないでにおいて、できないとか言っていないで、まず、やりなさい。

デカルトを読もうとしたら、『方法序説』と『情念論』はフランス語、『省察』はラテン語、スピノザを読もうと思ったら、『エチカ』や『知性改善論』はラテン語、『短論文』はオランダ語（訳）、アリストテレスを読もうとしたら、テキストはギリシア語だけれども、2400年も研究の歴史があるので、ギリシア語で書かれた註解、ラテン語訳、ラテン語で書かれた註解、アラビア語訳、ヘブライ語訳、近現代になると、英語訳、フランス語訳、ドイツ語訳、イタリア語訳、スペイン語訳、オランダ語訳、また、それぞれの近代語で書かれた註解書や研究書、研究論文があって、そんなにできないよお～、とか言っていないで、できる分だけでも、できるだけ若いうちからとりかかって、やれっちゅ～の。できない、とかいって、やらないような奴は、翻訳だけ読んで分かるうとしても、分かるはずのこともわからんわ。

そんなこと言われてもお～、という人は、身近に、そういうことを現にやっている人（先生とか、先輩の大学院生とか）を見ていれば、自分にもできるかもしれない、と思うのだろうが、世の中には、どこか、遠くの大学には、そういう先生もいるかもしれないけれども、直接そういう何か国語も同時に、一つの演習の中で扱っている演習（授業）を体験したことないから、実感湧かないよう、というところなのかもしれません。それは、スタッフ（現にいる先生たち）の責任で、みなさん学生のせいではありませんけれども、こう言っでは失礼かもしれませんが、かわいそうです。

私の学生時代の経験では、学部生のうちに、英独仏とギリシア、ラテンの文法までは学び、これら5つのうち、2つは、文献を読む演習で訓練、読むトレーニングを受け、大学院まで行くと、3つめから5つめまでの読むトレーニングを積んで、最低、5カ国語は何とか読めるようにする、というのが、制度的にはどこにも明記されていないけれども、暗黙のうちに求められていました。

ついでに、外国語ではなくて、さきの、母国語といっても、日本語の場合、『古事記』、『枕草子』等でも違いますから、意識的に学習しなければ正確に意味を汲み取ることはできないように、ドイツ語でも、エックハルトの中高ドイツ語、パラケルススの初期新高ドイツ語と現代のドイツ語では発音も綴りも語彙も違いますから、現代ドイツ語しか知らないで、ドイツ語をやった、と言う手合いは、何もわかっていないと言わざるをえません。

Q.8 先生は学生時代様々な言語で原典を読まれていて、暇な時間などはあったのですか。

A.8 あったと思います。しかし、大学生として勉強しているときくらい、寝ても覚めても、テキストと取り組んでいる、という時期があってもよいのではないですか。

科学哲学・科学思想史 第3回 (2016.10.18.)

Q. 1 先生は様々な言語を学ばれていますが、特に得意な言語はありますか。

A. 1 特に得意なものはありません。高校のとき、大学受験のときも、英語は得意ではありませんでした。英数国の中では、数学のほうが好きで、国語も、古文・漢文よりも、現代文（ただし、詩の解釈は苦手）の論理的評論文が好きでした。ですから、文学部志望なのに、二次試験に数学があるところでないと、安心できないので、受験できる大学が限られていました。しかし、未知の言葉への関心はあるので、高2のときから、フランス語、ドイツ語、ラテン語を勝手に勉強し始めましたし（そのせいで、浪人したのかもかもしれませんが）、浪人中にも、ギリシア語とロシア語を勉強し始めました。

Q. 2 いろいろな言語を学んだり原文をよむことの重要性がわかりました。今後は今日きいた話を意識して演習の授業にとりこんでいきたいです。

A. 2 そうしてください。

Q. 3 山田晶氏の1日のスケジュールは凄まじいと思った。大学の先生ですらこれだけの分量の研究、外国語学習を日々積んでいることを考えると、我々学生もこれくらいをやらなくてはならないのかと思ったが、さすがにこの量はいきなりは難しそうである。

A. 3 研究対象を一定の学術的・学問的水準で扱おうとすると必要になる研究方法・手段が、何か国語かにわたる文献の読解力なので、1) それだけの読解力が必要なことに気づくこと、2) その読解力を身につける努力をすること、3) 実際に、ある程度以上、身につけている、という段階を区別して現状をみると、1)にさえ気づいていない研究者も少なくありません。

Q. 4 文献のコピー&ペーストをする人が本当にいるのに驚きました。私自身は英語も苦手ですが、何ヶ国語も話せる人は憧れです。語学、がんばりたいです。

A. 4 剽窃や盗用をそれと判定することは実は難しい（「剽窃」や「盗用」の定義や程度によるので）のですが、厳密にみると、卒論やレポートで、散見されます（書いている本人が、自分がやっていることが、「剽窃」や「盗用」に該当すると意識していないのだと思いたいのですが）。

また、「話せる」は言葉の運用を象徴してるのかもしれませんが、聞く・話す・読む・書く、は本来、一体のものでも、日常語ではなくて、（もう話されていないこともある）文献研究の場合は、「読む」が中心です。「スーフイズム」（イスラムの神秘主義）の研究で有名な、R. A. ニコルソン (Nicholson, 1868–1945) は、今でも参照されうるべき学問的に重要な、翻訳、註解、研究書を残しているのに、一度も現地（中東）を訪れたことがなく、現地語（アラビア語、ペルシア語）を一言も話さなかった大学者です。（この点、中国語を話さなかった／話せなかったけれども、中国人が読んでわかる中国語（漢文）を書いた荻生徂徠と通じるところがあります）

Q. 5 「思弁」は哲学の学会等では否定的に扱われるとのことでしたが、思弁的な議論を行う者は、そもそも哲学者ではないということでしょうか？

A. 5 本来の「思弁 (speculation)」は、「思索、熟考すること」という、よい意味であって、悪くない意味ですから、例に挙げたのは、皮肉を言う場合の言い方です。同じ、皮肉は「形而上学」や「形而上学的」という表現で言われることがあります。「思弁的」と「形而上学的」が、皮肉をこめて使われるときに共通していることは、（皮肉を言われている側にはそのつもりはなくても、皮肉を言う側からすると）「根拠のない勝手な考えを展開している」ということです。この「思弁」の意味次第で、Q. 5の最後の問いの答は、そうである、とも、そうではない、とも言えるでしょう。

Q. 6 家にあった『国語辞典 第九版』旺文社で、「科学」を引いてみました。

(1) ある対象を一定の目的・方法のもとに実験・研究し、その結果を体系的に組み立て、一般法則を見つけ出し、またその応用を勧化ある学問。

(2) (狭義で) 自然科学。

辞書を引きながら、小学生の頃に、「科学」と「化学」の違いは何だろうか、と疑問を抱いたことを思い出しました。

A. 6 紹介してくれた辞書の分類では、(1)の中に、人文科学や社会科学（そして、もちろん、自然科学）も含めて考えることができる、学問一般を指しているようですね。

5 小学生のころの疑問と言えば、「論理学」と「倫理学」はどう違うのだろうか、と一瞬、思ったことがあります。辞書を引いて、その時はすぐに解決しましたけれどもね。

Q. 7 religious と science (ママ¹) の間にあるのが哲学だ、と聞いてますます哲学は何なのか分からなくなっていました。

10 A. 7 研究・考察する主体（とその方法）と、研究・考察される対象との関係が問題にされているので、引用した限りのラッセルの論述では、religion が対象とすることを、science の方法で研究・考察するのが philosophy である、と要約できると思います。

Q. 8 ラッセルのテキストに関して、彼の中で、神学に関する科学は存在しないのでしょうか。

A. 8 よい質問です。引用した限りでの、ラッセルの論述のなかでは、ありません。「科学」の意味を、ラッセルのいう意味ではなくて、広義の「学・学問」とすれば、ありえるでしょうが。

15 Q. 9 先生は心霊スポットでどんな実験をするつもりなんですか。

Q. 9' 先生は幽霊を信じていらっしゃいますか？

A. 9 写真を撮ってみましょうか。最近はありませんが、以前よく金縛りにあったので、見えないけれども、何かいる、という感じはあります。幽霊というのとはちょっと違うかもしれませんが、数日前も、寝ていると、押し入れから何か黒いもの（何かはわからない）が出てくる気がして、目が覚めました（目が覚めてみると、別に何もかわったことはありませんでしたが）。

20 それよりも、現実の世界で、学生時代から西洋古典語（ギリシア語とラテン語）を読むトレーニングと論理学の学習をしていない人が、哲学をやっていると称して、哲学の授業を担当していることのほうがよっぽど怖いと思います（「怖い」の意味が違うか）。そういう事態が進行している場所こそが最強、いや、最恐の心霊スポットだと思いますが、どんなに怖いことになっているか、機会を見て、説明しましょう。

30 Q. 10 From the day I become(sic, became) a student learned (sic, of) philosophy till now I have read some books on philosophy and other fields, but I find(sic, found) it's(sic, it was) difficult for me to get the point of one book and to make a compare(sic, comparison) among similar books. The worst result is when I finished one book more than 1 week, I will totally forget what is(sic, secl.) the book(sic, the author) have(sic, has) talked and how the author arrange(sic, arranges) it.

(大意) 私は哲学の学生になってから今まで、哲学や他の分野についての本を何冊か読んだが、或る本の要点を理解することや類似する何冊かの本を比較することは、私には難しいことがわかった。最悪なこと（結果）は、1週間以上かけて1冊の本を（読み）終えたとき、その本（著者）が何を語っていたか、その著者が（その内容を）どのように配列（整理）していたかを、すっかり忘れてしまうことです。

A. 10 You had better make a note of the books which you are reading. If you find some words (or, some phrases, expressions) interesting, you'll write them down, that you may not forget them. If you make extracts (or excerpts) from the books which you have read, they(=extracts) will be useful when you write a treatise on the subject which has do to with the books you have read.

40 (大意) あなたが読んでいる本のノート（メモ）をとるほうがよいでしょう。もし、何か単語（や、語句や、表現）がおもしろい（興味深い）と思ったら、それらを書き留めて（メモして）おきましょう。そうすれば、それらを忘れないですみます。そして、あなたが読んだ本の抜粋を作っておけば、その本と関係のあるテーマについて論文を書くときに役立ちます。

¹品詞を統一するならば、religious と scientific（どちらも形容詞）または、religion と science（どちらも名詞）。

科学哲学・科学思想史 第4回 (2016.10.25.)

Q.1 人間の研究はとても難しいもので、人間について全て知るのは非常に困難だと思った。

A.1 それは引用した、『パンセ』のパスカルも言っている通りです。ですが、自分ができる範囲で、できる方法で理解する努力を放棄してはいけません。

5 Q.2 現在私は、総合科学部の数理情報系の授業に参加しています。この授業のテーマは、PCと数学の知識を用いて、円周率(π)をいくつかの方法で求める、というものです。私自身、T-M展開などの知識(すなわち、「抽象的科学」の知識)が不足して道に迷っていますが、日常生活に支障をきたすほどではありません。

A.2 それは、各自がどういう世界(何を必要とする世界)で生きているか、次第ですね。

10 Q.3 R.A. ニコルソンがスーフィズムの研究を、現地を訪れず現地語も話せず行ったとありました。どのように研究を行ったのか詳しく教えて下さい。文献研究だけでそれほどの成果を残せるものなのでしょうか。

A.3 残せませし、現に残っています。それは、研究対象の性質によります。ただ、「現地語も話せず」というのは、正確ではなくて、彼の実力から言って、話そうと思えば話せただろうと思
15 います。話す機会を自分からつくらなかつた、というより、つくる必要がなかつた、ということでしょう。

問題は、研究対象がどのような性質のものであるかによります。それは、研究対象となる思想等と、それを書き記した文献が、すでに過去のものであり、かつ、その文献に用いられている言語そのものか、その言語に由来する(その言語が変化した)現代語を用いる、現地の研究者がい
20 ない(いても、連絡がとれず、実質的にいないに等しい)、ということが条件です。ニコルソンが、研究対象とした、イスラムの神秘主義(スーフィズム)は、西洋哲学史の時代区分で言えば、主に、中世のものであつて(つまり、現代には、このスーフィズムをこまま引き継ぐ人たちがいない)、ニコルソンが研究活動を行なつた20世紀前半には、イスラムの中のスーフィズム(神秘主義)は、存在はしたけれども、中世のそれとは異なるものであつて、20世紀前半という同時代の
25 現地(中東)に、中世のスーフィズムを学問的水準で理解する研究者を、中東に求めることはできなかつたと考えられます。むしろ、中世のスーフィズムについては、これを学問的水準で研究しているのは、欧米の研究者であつたので、ニコルソンが訪れて、情報交換をするべきは、中東ではなくて、研究者がいる欧米の各国であつたろうと思われま。

ここまで徹底していませんが、似たような状況は、西洋古代哲学史、古代ギリシア哲学について
30 も、ある程度まで言えます。もっとも、現代も、ギリシア語(現代ギリシア語をやっている人は、ギリシャ語と書きたがる)も使われており(口語と文章語に分かれ、発音も表記も、古代のものとは異なるけれども)、現代ギリシア語で、古代ギリシア哲学を論究している研究者はいるにはいま
35 す。しかし、例えば、今、日本人が、古代ギリシア哲学を勉強するために、留学しようとするとき、思いつくのは、ギリシアではなくて、文献も研究者も揃っている、イギリスであり、ドイツであり、イタリア、フランス、それに北米です。つまり、ギリシア以外の欧米です。それは、古
40 代ギリシア哲学は、ギリシア以外の欧米で研究が続けられた蓄積があり、研究文献も、英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語等で書かれたものが重要で、現代のギリシア人でさえ(自国では現代ギリシア語で書くでしょうが)、欧米の研究者に認めてもらうために、英語で論文を書いたりしています。つまり、古代ギリシア哲学も、現地語(現代ギリシア語)を使わなくても、原典
(古代ギリシア語)の他に、研究文献を読むために、英独仏(できれば、伊西)くらいができれば、
45 研究していける、というのが今の状況です。

原文(英語)でも、日本語訳でも読めますから、読んでみて下さい。

・Nicholson, R. A., 1914, *The Mystics of Islam*, London: G. Bell and Sons.

・R.A. ニコルソン, 1996, 『イスラムの神秘主義 スーフィズム入門』, 中村廣治郎訳, 平凡社(平凡社ライブラリー 143)

ついでに、仏教ではなくて、印度仏教の研究も同様でしょう。つまり、インドでは、既に密教化

していた仏教が、イスラム教徒の席卷によって、13世紀にはいと滅亡しますから、あとは、東南アジア、チベット、中国、日本に伝わって、それぞれに土着化し変容した仏教しか残っていません。従って、インド本来の仏教の研究は、残された文献によるしかありませんが、それを、現地人（インドの人）よりも、むしろ、欧米人や日本人がやっている、というのが現状でしょう（もっとも、仏教はインドでは異端なので、正統派の六派哲学などを研究するインドの知識人は、今でも、サンスクリットを読み書きできますが）。

Q.4 幽霊か夢かわかりませんが、今夏アパートの中で寝ている時に、人（男？）が物色する感じで歩き回っている（そんな気がする）感触がする、ということがありました。気温に関わらず、気配が消えたので起きたら、寝汗が凄かったのも、夢だとやはり思います。

Q.4' わたしも最近よく金縛りにあります。けっこうこわいですね。

A.4 Q.4で書いてくれているように、体を動かさず、目をあけられず、見えないけれども、人が部屋に入って来て、寝ている自分のまわりをぐるっと回るのがわかって、このままではやばい、と思って身をよじって体を無理に動かすと金縛りが解ける、ということ、ほぼ、毎晩、繰り返していたことがありました（京都の下宿での院生時代）。廊下をはさんで北側の部屋と、南側の部屋を借りていたのですが、北側の部屋で寝ると、上述のような金縛りにあうのですが、南側の部屋で寝ると、一度も金縛りにあったことはありません。そのことに気づいてから、南側の部屋で寝るようになりましたが、これは、人に何かついていたのではなくて、北側の部屋になにか原因があったのではないかと思っています。また、自分では経験したことはないのですが、もっと強力な金縛りにあう人によると、人が入って来る程度のものでなく、この世界というか、周囲の空間自体がゆがむ感じがするのだそうです。

Q.5 interestingの意味は「興味深い」であるけれども、文脈によっては皮肉にもなり得る、というのを聞いて、文章を読む時には、そのようなことにも十分気をつけなければいけないのだと思いました。日本語でもそういうことはよくありますが、外国語では意識しなければ気がつかずに読み進めてしまいそうです。

A.5 It's interesting!

Q.6 哲学は生活の大切な部分です。でも、人々も生活で哲学を取って、それで、観点は「経験は哲学に勝る」。中国で、哲学の学生は、哲学を勉強するとともに、ほかの学科も勉強しています。会計、管理、ビジネス等、卒業後の仕事を見つけるためにです。今、「哲学」はもっと現実の生活と結びつけるべきかもしれません。

A.6 問題は、大学の「哲学」の課程（コース、分野）が、何を学び、身につけた学生を卒業生として、社会に送り出そうとしているか、という点にあると思います。この点で、広島大学は、非常に微妙なところにあります。「哲学」を学んで、学士課程（大学学部1～4年）、大学院修士課程（博士課程前期1,2年）、大学院博士後期課程（博士課程後期1～3年）の卒業、修了者として、どういった人を社会に送り出すことを目指しているかが問題です。最終的には、大学院博士後期課程を修了して、「哲学」の研究者を輩出することを目指しています（修了しても、「哲学」の研究者にならない人もいます）。学士課程と大学院修士課程は、その途中経過ですが、学士課程で卒業する人も、大学院修士課程で修了する人も、それぞれの段階で、できることを学んで、「哲学」の研究者以外の職業に就くことを意図しています。この場合、最終的に目的とされる「哲学」の研究者は、自分の仕事として、哲学の理論的な問題を考えると同時に、「哲学」を専門にしない人たちや、「哲学」を学んでいる最中の人たち（学士課程や大学院修士課程）が、原典でテキストを読めない場合、例えば、ホッブズを読んだり、パースを読んだりしようとするときに、その手引きとなる、正確な翻訳や解説を提供します。これができるようになるための、組織的な訓練・トレーニングは、現状では、大学でしかできません。ですから、学士課程や大学院修士課程で、卒業・修了する人は、自分の必要に応じて、実践なりフィールドワークの必要な哲学以外の分野をあわせて履修することを前提とします。実践や応用については、社会哲学や社会学、倫理学などがテーマとして取り上げています。しかし、それらの学問的水準を保証するのが、「哲学」の分野の仕事です。

科学哲学・科学思想史 第5回 (2016.11.08.)

Q.1 とても小さな疑問なのですが、赤井先生が書かれた文章の読点はいつも「。」ではなく「.」になっています。これは何故でしょうか。書式的なことでも理由があるのでしょうか。

A.1 理由があります。これは、よい質問です。日本語でも、横書きの句読点は、「、」と「.」を使い、縦書きのときは、「、」と「。」を使うというルールに従っています。文科省は、これの折衷型で、「、」と「。」を使うように指示しています。横書きの書物の句読点がどうなっているか、調べてみて下さい。参考資料と、次の記事を参照のこと。

C7「句読点に苦闘!?!」(『生協だより』103号[2006.04.25]より)。

Q.2 ニュートンが錬金術師とはどういうことですか？

A.2 文字通りの意味で、近代自然科学的な科学者ではなく、ニュートンは錬金術師だったということです。ニュートンは、デカルト（というよりは、デカルト主義者）の機械論的世界観に対して反対する限りで、神秘主義的傾向があり、実際に、錬金術とか魔術というべき実験をしきりに行なっていて、それに関することも多く書き残していた、ということが明らかになっています。資料参照のこと。

Q.3 ついにレポート課題が出ました。頑張ります。センスのあるタイトル(を)つけ(ら)れるように頑張ります。

A.3 頑張るのも結構ですが、肩の力を抜いて、楽しんで取り組んでください。「黄昏(たそがれ)のアレクサンドリア—アテナイとの決別」とか・・・何のこっちゃ？あるいは、「定食屋のアレクサンドリア、専門店のアテナイ、あなたはどっち？」・・・うう～ん、これもなんだかなあ・・・

Q.4 ギリシャよりもイギリスやアメリカを含めた欧米の研究機関の方が、古代ギリシャ哲学の研究について優れているという話題ですが、日本の文化や歴史などについても同じようなことが言えると思います。イギリスに留学した際、他の国から来た留学生の方が、我々日本人よりも日本の文化と歴史に興味があるし、実際に多くを知っていることもありました。

講義の本筋からはそれですが、日本や海外で現在、哲学者の方のあいだ(で)議論されているメインの議論は何でしょうか？また、過去の思想家で現在とくに再評価されている人にはどのような人がいますか？

A.4 思いつく所では、例えば、近代語で読めばすむような、ベストセラーになっている、Harry G. Frankfurtの"On Bullshit"を含む、*The Importance of What We Care about*とか、ドイツ語なら、Habermasとか。

これに対して、古典語(ギリシア語かラテン語)を読めないと、原典でどう言われているかわからないようなものとしては、フランスでは、J.-P. Torrellのおかげで、トマス・アクィナスが注目され、トレルの本の英語訳も出ていたのではないかと思います。日本ではそれほどでもなかったですね(カトリックのせい)。20世紀後半からの、「応用～」「実践～」ブームも、ニーチェの予言の通りですね。

Nachweis der barbarisierenden Wirkungen der Wissenschaften. Sie verlieren sich leicht in den Dienst der „ praktischen Interessen “. [Nietzsche, Philosophenbuch, MA, 6, S. 8.]

学問の野蛮化する効果を指示すること。学問は「実践的関心」への奉仕のうちに、容易に、自己を失って行くものである。(渡辺二郎訳、『ニーチェ全集3、哲学者の書』ちくま学芸文庫, p. 235.)

数学者ジャン・デュドネの、「基礎(純粋)」と「応用」に関する数学についての言及は、哲学にもあてはまると思います。

「ポアンカレ以後40年間、フランスには真の応用数学は存在していなかったと言える。良くできる学生には『純粋数学をやりたまえ』と勧める一方、普通のできの学生にはむしろ応用数

学の方が良いだろうと助言するのだったが、その裏には『この学生のできるのは高々そんなものだろう』という考えがかくされていた」・・・「しかし本当はその反対が正しいのだ。良い純粋数学ができて初めて良い応用数学をやれるようになるのだ」(M. マレシャル, 『ブルバキ 数学者達の秘密結社』, 高橋礼司訳, 2012, 丸善出版, p. 189.)

5 Q. 5 賦課説を支持した人々が、箱庭の外にいる超越的存在をどのようなものとして捉えているのか興味があります。

この部屋だけ物すごく寒い理由が知りたいです。

A. 5 ヘブライ (ユダヤ), キリスト教の場合は, その超越的存在は (世界の) 創造神でしょうし, プラトンやユダヤのフィロンの場合の, デーミウールゴス (世界を造る神的存在) は, イ
10 デアとの関係があるので, デーミウールゴスのみが, 超越的存在とは言いきれない点が微妙です。また, プロティノスの場合は, 一者 (ト・ヘン) から, より下層のものが次々と流出してくるので, すでに下層にいる, 我々にとっては, それは, 超越的存在ですが, その超越的存在からみれば, ひょっとすると, すべてが超越的存在の中での出来事とも言えるかもしれません。本来, それぞれのテキストにあたって, 調べてみる必要がありますね。

15 この部屋だけがすごく寒いのは, 霊の仕業 (しわざ) ということでしょうか? いわゆる霊障 (れいしょう) ですね。

Q. 6 思想を学ぶ時, より理解を深めるために, 言語を学ぶことはとても大切だと思いました。

A. 6 物理的 (原典が手に入るかどうかということ), 能力的 (自分が原典で読めるかどうかということ) に可能な限り, 原典で読んで下さい。

20 Q. 7 最近フランス語を学び始めました。毎朝 10 分だけでも学習すると, ドイツ語, サンスクリット, 英語を読む時に, 頭の切り換わりがよくなります。

A. 7 *Aimez donc le travail, jeunes élèves ; hors du travail vous ne trouveriez qu'amère déception et suprême ennui. — Louis Pasteur*

25 されば仕事 (この場合, 学生の仕事, つまり, 勉学) を愛するがよい, 若い学生 (生徒) 諸君よ; 仕事をそとにしては, にかい失望と, この上ない退屈しか見つからないであろう。— ルイ・パスツール

Q. 8 以前, 心霊スポットを知っていたら教えてほしい, とおっしゃっていましたが, フジグランの映画館の, あるスクリーンに何かいるらしい, と聞きました。そこでは絶対にホラー映画は上映しないらしいです。

30 A. 8 ほら～見たことか。ん?

学内の心霊スポットのひとつは, 哲学研究室 (哲学分野, 西洋哲学分野) ではないでしょうか。それを知ってか知らずにか, 昨年度の学部 2 年生は在籍者なし (従って, 今年度の学部 3 年生は在籍者なし。実は, 編入学試験で合格者があったので, 1 名になるはずでしたが, 本人はフランスのものをやりたがっていたので, フランスの専門家がいる他の大学へ行ったのでしょう)。

35 つまり, どこかに心霊スポットを探さなくても, 哲学研究室の (手動の) 移動式書架に並ぶ洋書のあるところが心霊スポットかもしれません。せっかく書いたのに, (原典で) 読んでもらえなかったり, 翻訳で読んでわかったつもりになっている連中に対する, 原著者たちの怨恨のようなものを感じます。私は, それが何語であれ, とにかく, 少しずつでも原典で読んであげるのが, 彼らの供養になると思って, 原典で読むように心がけています。(この授業は, 講義が主体で, 講義
40 を聴いて自分でも調べて, レポートや論文を書く練習をしてもらうのが目的なので, 原典を読む訓練を目的とする演習や研究と違いますが) 演習などの授業では, たとえ 1 回の授業で数行しか進まなくても, 原典で読めるようになるための訓練をするべきですが, そうしないで, 翻訳で読んでわかったつもりになっているようでは, 森有正先生の「思想は思想からはじめたら全然駄目なのです」ということの意味がわかっていない, ということです。怖いことだと思います。

45 Q. 9 学問の実用性についての話です。(今回このテのコメントが多いと思います)

実用性がないという理由で文学部の廃止が提（ママ，掲？）げられて久しいですが，ぼくはぐ～たら学生なので，「お前のだらけきった生活に金はだっせん！」と言われてしまったら，それを退ける術がないです。

しかし，現に学問を極（ママ，究？）めようとしている人は少なからず（？）いるわけで，そう
5 いう人々に予算がいかないのは理不尽だと思います。

入学試験を厳しくすればよいのか？とも考えるのですが，母数が減ってしまうのも問題がある
気がします。

窮（ママ，究？）理の世界へいかずとも，今は無限に娯楽がありますから，そちらにどんどん
向かって行く人が増えるでしょう。

10 『すばらしい新世界』が近づいているのかなあ，と思います（悲観でしょうか？）

A.9 この手のコメントは，この1件だけでした。

この件については，何冊も本が出ていますが，まだ読んでいなかったら，見ておいて（読んで
おいて）欲しいのは，次の新書です。

15 吉見俊哉，2015，『「文系学部廃止」の衝撃』，集英社新書。

文科省が関係する制度上の経緯は，各自で理解しておいてもらうことにして，この吉見さんが
区別する，「目的遂行型の有用性」と「価値創造型の有用性」は正しい見方だと思います。これの
意味を理解するためには，「文系」とは何か？という根本的な問いをもとに，「リベラル・アーツ
20 (liberal arts; artes liberales)」「教養 (Bildung)」「文化 (Kultur)」と「文明 (Zivilisation; civilization)」
の区別を前提とする)，「一般教育 (general education)」(この本では現象を記述しているので，言及
されていませんが，generalを「一般」と訳すのは，そもそも，誤訳だという人もあります。)「共
通教育」「コンピテンス (competence)」などの，歴史的，概念的区別をした上で，自分たちは何を
目指すのか，ということが問題になると思います。

25

「文化」と「文明」については，下記を参照のこと。

柳沼重剛，『西洋古典こぼればなし』，1995，岩波書店，pp. 3-24（「文化」「文明」という言葉に
ついて）

30 ノルベルト・エリアス，『文明化の過程・上』，赤井慧爾／中村元保／吉田正勝訳，1977，法政
大学出版局，pp. 74ff.

フェルナン・ブローデル，『文明の文法 I』，松本雅弘訳，1995，みすず書房，pp. 31-53.

科学哲学・科学思想史 第6回 (2016.11.15.)

Q.1 ホワイトヘッド『観念の冒険』の邦訳 p. 490 下段に、Hellenistic の基調として、「特殊な論題に関する特殊な型の秩序についての研究」と書いてありました。先生の例えをあてはめると、特殊な出汁（だし）に関する特殊なラーメン・・・とでもなりますか？

5 A.1 Hellenistic つまり、ヘレニズムのアレクサンドリアでは、様々な専門的なテーマが、詳しく研究されるようになっていた、ということでしょう。どんなラーメンの専門店も揃っているので、アレクサンドリアに行けば、いろいろなラーメンを食べることができるわけです。

Q.2 スチームがあっても薄窓一枚ではあまり変わらないような・・・表現する express の説明の時 ライプニッツ的なおっしゃっていたのはどういうことでしょうか。

10 A.2 寒冷地のように、室内全体を暖房するという発想ではありませんから、局所的にあったかければよいので、暖気が放出されるスチームがあるところだけ暖かければよいのです。ですから、薄い窓は開けておいて顔は外気にふれていてもかまいませんし、むしろそのほうが、暖気にかざした指先は、一層、暖かく感じられます。

ライプニッツのモナドの表出、表現が似ている、ということです。ライプニッツ関係の資料参照。

15 Q.3 この教室が寒いという話がでましたが、みんながコートを着てる中で、赤井先生だけシャツにベストという寒そうな恰好だったのが気になりました（笑）先生は寒さにつよい体質なのですか？わたしは九州出身なので、最近の西条の寒さにはとても耐えられません...

句読点のことなんてあまり考えたことがなかったのでおどろきです。気をつけて本など見てみようと思います。

20 A.3 私は、親（両親とも神戸の人です）の転勤のせいで、福島県で生まれ、幼稚園と小学校6年の1学期までを群馬県で過ごし、小学校6年の2学期から高校まで、神戸にいました。その後、濃尾平野の湿度の高い蒸し暑さと、体感温度は旭川なみ、と言われる寒さの、名古屋と、冬は寒く、夏は暑い、京都で暮らしましたから、暑いのも寒いのも好きではありませんが、ベルホヤンスクや赤道直下ほどでなければ、なんとかやっていけます。

25 句読点のことも、エレベータのボタンのどこを押すと、ドアの開閉所要時間にどういう違いがあるかとか、このチェロ、A線の調弦はあっているのに、D線が微妙に低い気がするが、どうしてもあわないぞ、とか、日常生活で、それが違うからといって、命に別状がない程度の違いが気になる人かどうかによります。句読点のことは、その最たるものです。

Q.4 寒いと言われてそういえば寒いと思いました。

30 Nature の図が錬金術の図みたいに見えました。 、 と 、 。のお話は興味深かったです。

A.4 「錬金術」ということばには、いかかがわしい、非学問的・(狭い意味で)非科学的という否定的な側面と、あやしいけれども、何かわからない不思議な秘密が隠されているような気がして、それを知りたい、という憧れを感じる側面の両方があるようですね。

35 Q.5 句読点がどのように書かれているか辞書で見て、自分も今後は意識して句読点を使っていきたいです。

A.5 そうして下さい。句読点の供養(?)になります。

科学哲学・科学思想史 第7回 (2016.11.22.)

Q. 1 *représenter* と *exprimer* の意味と、他動詞か自動詞のどちらなのかを、家で調べてみます。

A. 1 手許にある辞書 (*Le Petit Robert Micro*, 2013(1998)) では、それぞれ、第一義は、次のようになっています。

5 *représenter* v. tr. présenter à l'esprit (un objet absent ou une chose abstraite) au moyen d'un autre objet(signe) qui lui correspond.

exprimer v. tr. rendre sensible par un signe.

Q. 2 ライプニッツの思想を理解することは難しいですが、しっかり読んで理解していきたいです。

10 A. 2 ライプニッツに対しては、重要な哲学者(数学者)であると思いつつも、好き嫌いがあって、何を言っとるかかわからん、と投げ出してしまう輩も少なくありません。ライプニッツはオペティミスティックで、私たちに可能な手段で検証しようのないことを、勝手に言っている、という印象を受けるかもしれませんが、ライプニッツなりの根拠があつて言っているのだとすれば、それはどういうことなのか、と彼が書いたもの(テキスト)に即して読むことが、一番の供養(pūjā)
15 になると思います。

Q. 3 ナイトスクープの楽園の回を YouTube で探して観てみようと思いました。

A. 3 パラダイス、観られるとよいですね。

Q. 4 2012 年度のコメントシート Q. 4 に対する答えとしての、あるモナドが、他のすべてを「表現する」ということは同時に、そのあるモナドが自分を「表出する」ことである、というのが
20 いまいちよくわかりません。(理解力不足ですみません)

A. 4 あるモナドの立場(?) からみると、あるモナドが自分を「表出する」と、それは、同時に、そのあるモナドが、他のすべてを「表現する」ことにもなっている、という順序です。これは、悪い意味で、ヘーゲル的(つまり、何かを肯定する、ということは、別の何かを否定する、ということでもある)な、発想というか、言葉遊び的な面があるのですが、よく考えてみると、ブ
25 ラウアーの直観主義が問題にしたような、排中律をどう扱うか(無条件に認めるのかどうか)ということにもつながっていくので、一度は考えてみて欲しいことなのです。

Q. 5 事物が変化するにつれて、法則も変化する、というのは、私が思っていた法則の定義に矛盾するような気がして、驚きました。けれど(ママ、けれども²)、それ(事物の変化につれて法則も変化する)も法則だと言われると、なんとなく納得したような気になりました。

30 A. 5 これに関連して、パースも高く評価していたと言われる、Francis Ellingwood Abbot(1836–1903)の「客観的相対主義」と言われるものがあります。鶴見俊輔によれば、

アボットは、宇宙観においては、客観的相対主義(objective relativism)という立場を取った。個物だけでなく関係も実在する。われわれが採用する視点の変化に応じて、世界の意味が変化する、そういう関係構造を世界が客観的にもつという。[鶴見俊輔、『アメリカ哲学(上)』、
35 1976, 講談社学術文庫, p. 14.]

鶴見さんは、「客観的相対主義(objective relativism)」という表現を使っていますが、パース("What Pragmatism is", in *The Essential Peirce*, Vol. 2, p. 339, n. 12)が言及している、アボットの *Scientific Theism* では、Relationism とか Scientific Realism という言い方もされています。そこでは (*Scientific Theism*, p. 26), Subjectivity of Relations に対置される、Objectivity of Relations が問題にされています。アボットは、何を言おうとしているのか、また、何故、そういう考えをもつようになったのか、そして、パースは、これをどう評価しているのか、など、それぞれのテキストを繙いて調べてみる価値のある問題だと思います。

² 「けど」「けれど」は、論文やレポートでは、「けれども」とするほうが無難です。谷崎潤一郎『文章読本』を参照のこと。

Q. 6 「一と全の同一視」という考え方は、色々なところで説かれている気がします。バラモン教の梵我一如とモノイド論は少し似ているのではないかと思いました。(違う！と言われそうですが)。フラクタル構造というものが自然にはあるようですし、一種のロマンを感じます。

A. 6 *ἓν καὶ πᾶν* (hen kai pan) というのは、直訳すれば、「一(つのもの)と全(てのもの)」ですが、日本語では、「一と多」というほうが定着しているように思います。「一」である、真の实在への直観があって(それが、イデアだったり、プロティノスの一者だったりする)、それが、どういうからくりで、現実の世界(自然、宇宙)において、「多」(多様な個々の事物や現象)であることができるのかを、説明しようとするわけです。

Q. 7 動物がデカルトの言うような「機械」としての動物だとして、理性の有無はともかく、汎神論にかかわるスピノザ的なのかと思うと同時に、違うはずだから、差を理解できていないなど勉強不足を感じました。

A. 7 その「差」というのは、こういうことでしょうか。スピノザは、デカルトの影響を強く受けていますが(ですから、同じことばを使っていますが、その意味するところが違います)、決定的に違うことのひとつは、「実体(substantia)」として、何を認めるか、という点にあります。デカルトにとっては、自然に存在する、個々の事物も、有限ではあるけれども、「(有限な)実体」と言えますが、スピノザにとっては、それは、形容矛盾であって、「実体」と言われうるのは、「神(Deus)」だけです。それは、有限ではなくて、「無限な実体」です。では、自然に存在する、個々の事物は、スピノザにとっては、何なのか、というと、「神」という「無限な実体」の様態(modus)にほかならない、ということです。ですが、自然、つまり、自然に存在する、個々の事物は、「神」という「無限な実体」の「様態(modus)」なのですから、「様態」ではあっても、それは、「神」の「様態」ですから、神即自然(汎神論)なのです。

Q. 8 17世紀が、デカルト、スピノザ、ライプニッツ、ロック、パスカル、ニュートンらが登場した「天才の時代」というのは興味深かった。

宇宙論というのは、いわゆる「宇宙(space)」についての議論ではないということですか。

哲学における「space」(ママ, "space"³)以外の宇宙の意味を教えてください。(我々が「科学の分野で扱う宇宙」の意味で用いています。)

A. 8 不確かな記憶によって、「天才の時代」と言ったようですが、その出典は、ホワイトヘッドの *Science and the Modern World*(1925) の、17世紀を扱った、第3章のタイトルで、正確には、*The Century of Genius* (天才の世紀) です。翻訳もあります。この授業に出ている人には、原典で読んでおいてほしいと思います(私は、学部の授業で原典に接する機会がありました)。

・ Whitehead, A. N., 1925, *Science and the Modern World*, Macmillan. [1967, New York: Free Press.]

質問の、「宇宙」の意味についてですが、何かわからないもの、と言っておきましょう。わからないから、探究の対象になるもの、とも言えます。この場合、「宇宙論」は、cosmology といって、space という言葉を使いません。space だけだと、第一義は「空間」ですから、少し、補って「(宇宙)空間」と解することもできますが、もうひとつの重要な概念、「時間(time)」とあわせて(その他、「空間」でも「時間」でも表現できないものがあれば、それも含めて)、「宇宙」と言っています。現在の自然科学に限定せずに、学問的研究の対象になるものとしての、何かわからないもの、そして、わからないから、探究の対象になるもの、としての「宇宙」は、時代や使用言語によって、いろいろな言い方をされてきましたから、万有(ばんゆう, τὸ πᾶν(to pan))とも、世界(mundus)とも、自然(φύσις(physis), natura)とも言われます。特に、ギリシア語の「ピュシス(自然)」については、それが、「何かわからないもの」であり、わからないから、「探究の対象になるもの」ということを、テキストに基づいて論じた文献として、私の知るかぎり、次のものがあります。

・ 赤井清晃, 「アリストテレス『プロトレプティコス』Fr.13 Ross における「ピュシス」の意味について」, 古代哲学会『古代哲学研究』26(1994), pp. 39-44.

³引用符をつけるなら、欧文には欧文の引用符を、日本語には日本語の引用符をつけること。"space", 「宇宙」, 「宇宙(space)」は可。

西洋古代哲学史 第8回 (2016.11.29.)

Q.1 スピノザは神以外を存在するものとして認めないとありましたが、我々の世界は彼にとって真に存在しない不安定なものとして捉えていたのでしょうか。

A.1 「存在」という日本語と、「実体」という日本語を区別して下さい（スピノザが使った言葉、つまり、ラテン語で読めばこういう行き違いは起こらないでしょうが）。スピノザは、存在するために自分自身以外を原因として必要としないもの（それを実体という）として、神のみを認める、ということです。そして、「我々の世界」（スピノザの言葉では、*natura*:自然）は、唯一の実体である神の「様態」「属性」として、実体である神に依存して「存在する」というのです。その場合、「我々の世界」は、「真に存在しない不安定なもの」であるという言い方をしません。とにかく、「我々の世界」は、唯一の実体である神の「様態」として「存在する」のですから。

Q.2 「課せられた法則」の説では、神という超越者が存在するので、世界の始まりについて考えることができると思います。一方で、「内在説」では、最初から世界が存在する、とされているので、梶田先生たちがいくら頑張っても、世界の始まりに到達することはできないのでしょうか。

A.2 賦課説も内在説も、それぞれを徹底すればそうなりますが、内在説でも、賦課説との折衷型を考えれば、世界の始まりを考えることができるかもしれませんが、その場合も、世界が始まる前はどのようなのかは、わかりませんが、

Q.3 賦課説にあるような、個物の関係が客観的に存在するという考え方は、身に染みて理解するのは相当難しいです。カントがこのあたりを「コペルニクスの転回」させたのだと思うと、我々はかなり彼に（悪い言い方をすれば）毒されている（と）感じました。

A.3 う～ん、いろいろな哲学の用語が出てきますが、これを整合的に理解するには、相当、ことばを補って、飛躍する部分に橋をかけないと、わかりませんから、授業では、ちょっと、やってみましょうか。その前に、非常に気になるのは、「賦課説にあるような、個物の関係が客観的に存在するという考え方」と言っていますが、ホワイトヘッドの言葉使いでは、賦課説について、「個物の関係が『客観的に』存在する」とは言わないはずで、ホワイトヘッドとは別に、私が紹介した、Abbot の表現が紛れ込んでいませんか？ 森有正先生に「思想は、思想から出発したら全然駄目なのです」⁴とされていてしまいそうです。

Q.4 ホワイトヘッドの著作についている章のタイトルに統一性がないあたり、もっと自由な発想で学問に取り組む意味だったりするのでしょうか。

A.4 そう思ってもよいかもしれません。ちなみに、その Whitehead, A. N., 1925, *Science and the Modern World* の章のタイトルを紹介しておくと、以下の通りです。

I. The Origins of Modern Science

II. Mathematics as an Element in the History of Thought

III. The Century of Genius

IV. The Eighteenth Century

V. The Romantic Reaction

VI. The Nineteenth Century

VII. Relativity

VIII. The Quantum Theory

IX. Science and Philosophy

X. Abstraction

XI. God

XII. Religion and Science

XIII. Requisites for Social Progress

Q.5 この授業を受講していると、「論理学」の授業に興味が出てきました。物事を論理的に

⁴ 「ルオーについて」より、森有正『思索と経験をめぐって』、1976、講談社学術文庫、p. 134.

考える手助けをしてくれそうです。

A. 5 授業で「論理学」を受講しても、すぐに、自分の論理的思考に役立つものではないかもしれませんが、21世紀のいまどき、専門が何であれ、「第1階の述語論理の自然演繹」とは何かくらい知らないで、大学を卒業した、というのは恥ずかしいのではないかと、思うのは私だけでしょうか（どうも、ここの文学部では、私だけの様な気がします）。

Q. 6 万年筆講義は非常に面白かったです。プラチナ社のものを買ってみます。そんなに良いものを108円で売って大丈夫なのかな、と思いました。

Q. 6' 万年筆講座おもしろかったです。

A. 6 逆に言うと、税込み108円で販売できるような素材と設計で作った、ということでしょう。これの、金属部分を増やすと（キャップとか、キャップについているクリップ、それに本体の軸など）、もっと高額になるはずですよ。

Q. 7 万年筆は私は使ったことが一度もありません。イメージとしては、すごく書きにくそうです。100均にも売っているとは知りませんでした。

Q. 7' 万年筆の世界は奥深いものだと思った。ボールペンではなく万年筆を使うのはなぜですか。

Q. 7'' 万年筆の話は興味深かったです。自分は万年筆を使ったことがないのですが、万年筆は使いやすいですか。

A. 7 何に（紙や、用紙）、何を書くかによって、鉛筆、ボールペン、サインペン、万年筆などを使い分ければよいのでしょう。実際、鉛筆も、ボールペンも使っています。万年筆は、ボールペンのように、筆圧をかけず、ペン先で紙面をおさえなくて、ペン自体の重さだけで、紙の上をすべらせるだけで、文字を書き続けることができるので、長時間、大量に書いても疲れません。また、何年も使っているうちに、使う人の癖がつくというか、その人の使い方に合ったペン先になってきます（他の道具でもそうでしょうが、なんだか、ヴァイオリンなどの弦楽器と弓に似ています）。それで、自分の手になじんだ万年筆は他人に貸すな、とも言われます。私も、講義を受けたときのノートや、卒論や修論の下書きに使った（学生用の安価な）シェーファーやパーカーの万年筆は、30年以上使っていますが、その後、入手したもっと上等な万年筆よりも、使い易いと思います（上等なものは、使い込まなくても最初から、一定以上の書き易さを発揮しますが）。

修正液などもありますが、書き直しがきかないから、次に何を書くかを考えて書かなければならない点も、手と頭を使うトレーニングになっている、と思います。ドイツでは、小学生から筆記体の練習を万年筆でさせるので、子供用の書き易い万年筆が何種類も開発されています。他方、スペインでは、早くて、高校生、普通は大学生になってから万年筆を使うようで、国によって、万年筆を使い始める年齢に差があるようです。私自身は、初めて自分の万年筆をもったのは、中学生のときだったと思います。それ以来、何かしらに、万年筆を使っています。

科学哲学・科学思想史 第9回 (2016.12.06.)

Q.1 講義でホワイトヘッドの「自然の法則」に関する説について学ばなかで、宇宙や世界のあり方について想像しました。すると、この宇宙、世界は誰かがプログラムしたもので、人間の個性は乱数で決まる、という様なことが頭に浮かび、かなしい気持ちになりました。映画のマトリックス的だと感じ、旧約聖書のように感じました。私の自由意志や、何かを美しいと感じる心の源はどこにあるのだろうかと思いました。この問題は私の手に負えませんでした。

A.1 手に負えていたら、少なくとも、2000年以上も、その問題を考えて来た哲学者たちがやってきたことはなんだったんだ？ということになるでしょう。実際、誰も満足な解答を与えていないと思いますから。現在にいたるまでの、哲学史上、思想史上の誰かの思索（具体的には、その人の著作に示されている）を学んで、自分なりの、現時点での理解と解答を提示する努力をして下さい。すぐに、答が出なくても、その努力は無駄ではないはずですよ。その際、自分のフィーリングと合った、いわゆる、自分の好きな哲学者、思想家の著作よりも、何言ってるんだかわかん！なんか、嫌い！という人の著作を理解してやろう、というつもりで取り組む方が、自分自身の思索の力をきたえるためには有効です。ヤスパースのアドバイスの意図もここにあります。→C2ヤスパース「哲学・哲学史について」（『哲学入門』より）：pdfファイル

Q.2 連続創造説はビデオテープをイメージしました。

A.2 昔のフィルム映画のコマ割りのイメージでしょうか。

Q.3 「神が世界を創造した」(1)とするならば、時間と空間を超越した存在である神の立場からでは、「(過去において)世界を創造した」という認識ではないはずですよ。(1)はあくまでも人間の立場で考えた場合のみ成り立つと思いました。

A.3 そうですね。中世以降の用語で言う、「永遠」というのを、我々の時間の中でいつまでも続く持続としての「永遠」と、そもそも、時間（それに空間も）超越した「永遠」を、どちらも日本語に訳すと「永遠」ですが、ラテン語では区別して、*aeternitas* と *sempiternitas* と言います。

Q.4 理神論が「神」「超越的存在」から与えられた「自然の法則」を想定するのなら、世界はすべてその法則にしたがって活動するわけですから、かなり厳格な決定論的要素ももっているのではないかと思います。

A.4 「世界」の内実をどう解するかによりますが、物質的世界（いわゆる、自然）ならば、決まっている、という意味で、決定論でしょう。自ら、自由な意志をもってふるまっている、と思う存在者の問題が生じると、例えば、ジェームズが分類しているような、「堅い(hard)決定論」から「柔らかい(soft)決定論」まで、すべてが決定されているはずの世界の中で、なんとか、自由意志を確保しようとする努力がなされるわけです。が、これは、論理的な言い方ではないのですが、スピノザの場合、すべてが決まっていることに、思い至ったとき（ハッと気づいたとき）、人は「自由」になるんじゃないか、という気がします（逆説的な言い方ですが）。

Q.5 理神論は、中国では「自然神論」が対応します・・・自然にはいろいろな解釈がありますから。日本の哲学では、「自然」はどのくらいの意味がありますか？

A.5 日本語でも「自然神論」と言いますが、「理神論」のほうが、よく使われます。17世紀後半から18世紀にかけてイギリス（ハーバート、ブラウント、トーランド、ティンダルら）によって唱えられた *deism* の訳語です（日本語として、誰がいつこう訳したのか、知っている人は教えて下さい）。

「自然(しぜん、じねん)」のほうは、多義的で、これだけで、論文や本が書けるほどのテーマです。大まかに言うと、明治以降に、*φύσις*(*physis*) (ギリシア語)、*natura* (ラテン語) 等の訳語として、「自然(しぜん)」が使われる前には、仏教的な「自然(じねん)」が用いられていて、人と人以外の事物を区別せずに、それらすべてについて、ものごとのあるがままの姿、状態のことを指しました。しかし、この考え方には、人もあるがままでよい、という肯定的な見方と、これに対して、人が(今)あるがままでよければ、現状肯定的で努力することがない、という否定的な

見方があります。そして、明治以降に、西欧語の翻訳として使われる「自然（しぜん）」は、主に、我々の外界の事物、それも、人の手の加わった、人為的な、人工的なもの以外を指します。しかし、この場合も、「自然」の中に、人間（存在）も含めて考える見方と、人間を除いて「自然」を考え、「自然」と「人間」を対立的に捉える見方があります。

- 5 今、授業で読んでいる、ホワイトヘッドのテキストでは、「自然の法則」について、いわば「自然」の外側から、特権的に、論じている語り手は存在しますが、「自然」を認識する人間と「自然」の関係自体は、問題になっていません。この問題自体は、別途、考察されるべきものなのでしょう。

10 Q.6 ニュートンの賦課説を理解しようとするときに、カントが登場するとは思っていませんでした。我々が気がついていないだけで、本当は既にあるもの、があるという考え方は面白いと思いました。

15 A.6 「すでにあるもの」が、どこに、どういう仕方で「ある」と考えるかで、その内容・内実がかわってくる、と思います。例えば、素朴に、我々の存在や意識とは別に、我々の外界に、いわゆる「自然」として世界や宇宙（やその法則）がある、と考えるか、それとも、「自然の法則」は（自然・宇宙も含めて）、我々が認識する対象としては、我々が（いなければ、気づく者もいない、という意味で）我々の頭の中で（いわば、我々の思うように、勝手に）つくっている、と考えるのが、その両極で、この両者の間に、両者の折衷、調停、妥協的な、中間の考え方がいろいろあり得ると思います。

Q.7 初めて万年筆を使ったのでうまく使えませんでした。

20 Q.7 今日初めて、万年筆を使ったのですが、思っていたよりも使いやすかったです。もし今後も機会があったら使ってみたいです。

Q.7 万年筆体験コーナー おもしろかったです（笑）

やはり書き慣れないので難しかったです。

ドイツの小学生 すごいと思いました。

25 A.7 万年筆が、鉛筆やボールペンとちがうところは、筆圧をかけず（力をいれず）ペンの重さだけで、紙の上をひきずるだけで、文字や線が書ける、というところにあります。ですから、長時間、大量に書いても疲れないのです。採点や添削を大量にする人向きですね（この場合は、インクは赤ですが）。パソコンやワープロを使わなかった作家が作品（小説）を書くのにも向いています。

30 ところで、ナフコの筆記用具のコーナーには、沢山のボールペンやシャープペンシルが吊るしてありますが、ここにも、万年筆が、下の方、足下に、ひっそりと、ねかせて置かれています。2種類あって（どちらもパイロット）、ひとつは、Vpen（ヴイペン）で、これは使い捨てですが、捨てるにはもったいない出来のよいペンです（私は、機能をそこなわないように解体して、ボトル・インクを注入して、繰り返し使っています。名付けて、メーカー非推奨「解体注入式万年筆」）。もう一方は、有名な「カクノ」で、ブルーキャップのF（細字）が2本ありました。これには、インクカートリッジか（ボトルからインクを吸入する）コンバータが必要ですが、それは置いてありませんでした。

35

科学哲学・科学思想史 第10回 (2016.12.13.)

Q.0

A.0 ...

Q.1 先生の学部2年生の後期の時間割を見て、すごい、というか、驚きました。それと同時に、
5 やろうと思えばここまでできるものなのだな、と思いました。言語は苦手だし... と言いつ
をしている場合では無いと感じました。

A.1 文法を終えただけでは、テキストは読めないのが普通です。自分一人で読むのも大切で
すが、授業や読書会などで、他の人と一緒に、1回に読み進む量がどんなに少なくても、自分よ
り読める人（つまりは、先生や、先輩）に直してもらいながら、毎回、すこしずつ、読み進めるこ
10 とを何年か続けて、ようやくなんとか自分一人でも読めるようになるものです。そういう機会を
とらえて、できるだけ参加することが大切でしょう。自分一人では得られないものが得られるは
ずです。

Q.2 教育法、ハラスメントを含めた是非も大分変わっているのでしょうか。

A.2 ハラスメントについては、以前よりも今のほうが神経質になっていると思いますが、教
15 育法については、私は専門ではありませんが、経験からして、以前は、教養科目の外国語は、第
1外国語(最低)8単位、第2外国語(最低)8単位、さらに、それにプラス・アルファで数単位、
とらなければなりませんでしたが、今では、とらなければならない単位数が減っています。単位
数は少なくても、以前の8単位分の学力を身につける優れた教授法に変わり(改善され、make a
difference)、学生諸君も以前より、優秀になっているからでしょうか。例えば、以前は(つまり、
20 赤井が学部2年生の後期、ということですが)、フランス語で、ライプニッツの『新説(実体の本
性および実体の交通ならびに精神物体間に存する結合についての新説)』をドイツ語訳と対照しな
がら読む授業や、リセの最上級学年の哲学の教科書(フランス語)を読む授業、ブルトマンのド
イツの論文「歴史と終末論」やクロウチェ(ドイツ語訳)を読む授業を受けて、それらを普通に
読んでいましたが、現在、みなさんは、どうですか？

Q.3 多少忙しくても、高い水準を目指して言語学習に邁進していきます。

A.3 大変、結構ですが、まあ、そう、きばらんと、「自分のペース」でやってください。自分
のペースで、のんびりやっているのを、他人が見ると、結果的に、「高い水準」を維持していた、
というのが理想ですね。

Q.4 今 わたしは かなり スカスカの時間割なので、先生の昔の時間割におどろきました。
30 月～土曜まで講義がびっしり入っていることに対してもですが、全部で7ヶ国語(数えました
笑)を読んでいたということに対して、おどろきました。そんなに色々な言語を同時にやってい
て、頭がごちゃごちゃになることはないのですか？

A.4 なることはないのです(笑)。頭の切り替えも訓練次第です。以前、中世哲学の山田晶先
生の日常をうかがえる資料を示したことがあったかと思いますが、例えば、授業で、アリストテ
35 レスの『形而上学』を読むとすると、原典は、ギリシア語ですが、2400年も昔のテキストですの
で、多くの翻訳や註解が書かれているので、それらの主なものにも目を通さないと、現代の(文
献学的)学問的水準を維持して読むことはできません。そこで、最低、ラテン語訳、英語訳、フ
ランス語訳、ドイツ語訳、イタリア語訳(これらのどれも複数種類あるうち、主要なもの)に目
を通すので、同時に、何か国語かを読むことは普通のことになります。私が出ていたのは、学部
40 生・院生共に出席する共通の演習なので、学部生は、最初、原典のギリシア語、英語、フランス語
かドイツ語の3カ国語くらいからはじめて、学年が進むにつれて、少しずつ、目を通す文献を増
やしていく、というように訓練します。

Q.5 今日の授業では、自分が苦手とする思想にもふれることが大切だと思いました。自分は
あまり好きではない思想にはふれてこなかったもので、今後は意識していろいろな思想家の本を読
45 みます。

A.5 いろいろなものを読むことを希望します。資料のヤスパースが言っているように、例えば、梁啓超の『清代學術概論』（東洋文庫）を読むなら、あわせて、章炳麟（岩波文庫）のものも読む、というように、対立する思想家のものものを読んで、一方だけに偏することがないようにすることです。（おっと、今は、中国思想文化の時間ではなかったですね）

5 Q.6 先生の時間割表を観ると、もっと外国語を勉強しなければならないなと感じた。

A.6 何でも、自分で興味関心をもった著者の原典を図書館などで探して、手に取って、まず、読んでみることです。すでに翻訳で読んでいて、気になっている箇所があれば、そこが原典でどう書かれているか、探してみてください。冒頭から、なんて書いてあるのか、意味がわからなかったり、気になった箇所を探しても、それがどこなのか、わからなかったりしたら、それをわかるようになることを目標に、辞書を引き、文法書を調べて、勉強する動機になるでしょう。

10 Q.7 和訳とはいえ引用を多用した熊野先生の『西洋哲学史』よりも、著者本人の言葉が多めの伊藤先生の『物語 哲学の歴史』の方が得るものが多いというのは興味深かった。

A.7 板書が間違っていたので、ここに書き直しておきます。

- ・熊野純彦, 2006, 『西洋哲学史 古代から中世へ』, 岩波新書.
- 15 ・熊野純彦, 2006, 『西洋哲学史 近代から現代へ』, 岩波新書.
- ・伊藤邦武, 2012, 『物語 哲学の歴史 自分と世界を考えるために』, 中公新書.

著作の意図も分野も違うのですが、

- ・イーグルトン, 2014, 『文学とは何か 現代批評理論への招待（上）（下）』, 大橋洋一訳, 岩波文庫.

20 に対する、

- ・吉田健一, 1972, 『文學が文學でなくなる時』, 集英社.
- ・吉田健一, 1994, 『英国の文学』, 岩波文庫.
- ・吉田健一, 1998, 『英国の近代文学』, 岩波文庫.

25 の関係に似ているような気がします。前者は、初学者に、基本的な情報を与えてくれますが、後者は、そんなことは前提とされていて（書かれた時代が違うので、内容的におなじことを前提している、という意味ではない）、その上で、自分ならば、どう読むか、という実例を示してくれる（だからといって、読者がすぐに真似できるわけではない）ものだと思います。

30 ところで、次の本は、同じ、熊野先生の編著によるものです。竹田篤司『物語 京都学派』から引いている内容が多いのと、竹田篤司が「井ノ哲」（井上哲次郎、漱石の『三四郎』を参照）を批判的に扱っているのに対して、少し、「井ノ哲」を評価しているのが、ちょっと・・・と思いますが、後半の「近代日本哲学の名著」の批判的紹介は、その選択も、わるくなく、みなさんが、これを読んで、もとの著作を読んでみよう、とってくれるれば、と思います。

- ・熊野純彦（編著）, 2009, 『日本哲学小史 近代 100 年の 20 篇』, 中公新書.

科学哲学・科学思想史 第11回 (2016.12.20.)

Q.1 初めてフランス語の文章を見たのですが難しそうでした。ある程度読めるようになるまでも時間がかかりそうです。

A.1 是非、フランス語で読むことにチャレンジして下さい。読めるようになって、仮に、そうならなくても、どちらにせよ、新しい世界が開けます。

Q.2 confused について「玉石混交 (ママ, 淆)」とか「一緒くた」とは、また違いますよね。「雑然とした」と訳しておいて、註で説明するのが一番適当なんではと思うけど、翻訳としては失敗なんではと思うか。

Q.2' 「雑然とした認識」はまだ的確でないということで、未だこうしたじっくりする訳を探し続けているのだなと思いました。

A.2 訳文に註をつけないで、訳文だけを読者が読んで、誤解のないように伝えることのできる訳語をもたない言語の場合は、註をつけざるを得ないでしょうから、失敗とは言えないんじゃないでしょうか。例えば、「混封事度」と音写して、「こんふうずど」と読むこととし、意味は、「事が混じって封入されている度合」を表す、というのはどうでしょうか。冗談ですけど。

Q.3 デモクリトスの著作の3分の2を倫理的問題が占めていたことに驚きました。私は、デモクリトスと聞くとすぐに原子論を連想してしまいます。自分で原典や翻訳を読まずして、勝手なイメージをもつことは恐ろしいと思いました。

A.3 マルクスが最初に書いた論文(卒業論文に相当する)は、デモクリトスとエピクロスの原子論の差異がテーマでした。唯物論では、価値判断(善悪などの倫理的判断や美醜などの美的判断)の根拠をどうするかが問題になるからで、マルクス以降のいわゆる弁証法的唯物論の立場にたつ人々たちにとっても、価値判断の根拠をどう説明するかが課題であり続けていますが、そもそも、原子論の立場にたつデモクリトスにとっても、当然、問題になるテーマであったはずで

Q.4 原子論は、(原子と名付けた物質群からさらに細かくなっていくものの)現代の科学の基本思想を、神の意志ないし宗教的な思想の介入の阻止を行っている点も含めて大部分支配していると考えてもよいものなのではと思うか。

A.4 デモクリトスは、(ギリシア人の考える)神々(theoi)を構成する、原子についても考えていたようですが、エピクロスの原子論に従った、ルクレティウスは、実際には存在せず、人々の想像の産物でしかない「神、神々」への恐怖心を、時の権力者が利用して、無知な人々を支配する手段に利用しているのだ、と暴いています(『事物の本性について』VI.50-55)。紀元前に、すでにこういう人もいた、ということです。しかし、だからといって、はじめから、神(神々、絶対者、超越的存在など)を排除して、研究する、考察するという態度も、学問的ではない、という意味で、かえって、非科学的です(これについては、学生諸君のレポートや卒論を読んで思うところがあります)。しかし、逆に、合理的、理性的な探究を諦めてしまうのも、やはり、学問的には、受け入れられません。その点、自然科学者として研究しながら、哲学的には、最後に、「神」について論じている、ホワイトヘッドの記述を手がかりに考察しようというのが、この授業の目論みの一つです。

そこで、はじめから、理性によって探究することを放棄するのではなくて、できるかぎり、限界まで、理性によって(自然科学者として)探究する努力をした上で、到達した境地を言っているのではないかと思われるのが、理性を信頼して探究を続けた、パスカルの次の言葉です。

La dernière démarche de la raison est de reconnaître qu'il y a une infinité de choses qui la surpassent. Elle n'est que faible si elle ne va jusqu'à connaître cela. [Pascal, *Pensées*, Lafuma 188 ; Brunschvicg 267.]

理性の最後の一步は、理性を超える事柄が無限に存在する、ということ認めることである。理性がそれを認めるところにまで到達し得ないならば、理性は弱いものでしかない。

科学哲学・科学思想史 第12回 (2017.01.10.)

Q.1 ……(サンスクリット, 略) ……ジョージ・ハートのサンスクリット初級者テキスト (Lesson 26 (9)) で, 上記の文章がでてきました. ……(略) ……赤井先生はどのように訳しますか.

5 A.1 質問では, 訳文の内容を, 述語論理で記号化していましたが, 適切ではありません. また, 二重否定は, 強い肯定を意味するのは, 日常言語のレベルでの話で, 例えば, 様相のひとつに, 強調とかいうのを設定しない限り, 単なる否定か, 単なる肯定しかありませんから, 二重否定は, 単なる肯定です. さて, その後, メールで, 訳文の訂正を伝えてきたので, それに基づいて, どう記号化するべきか, お話ししましょう.

10 Q.2 今, 中間レポートを書いている途中で, どのような内容で書いていくか, 苦戦していたのですが, 今日の p. 508 の話がヒントになった気がします.

A.2 中間レポートは, レポート・学術論文としての書式 (特に, 引用のマナー) をチェックするのが目的ですから, 内容が完成していなくても結構ですから, 気楽に書いて提出して下さい. 中間レポートで受けたコメントを最終レポートに反映させることが重要です.

15 Q.3 『プリニウスの手紙』の板にろうを塗り鉄棒で書く話はとても興味深かった. ドイツやスペインの筆記用具事情は, 日本にはない習慣だと感じた.

筆記体の学習は英語の授業で学ぶことはなかった.

A.3 参照したのは, 以下の書物です.

20 Radice, B., 1969, *Pliny Letters, Panegyricus*, I, Loeb Classical Library ……これは, ラテン語-英語対訳で, Book VII, XXVII, p. 546.

國原吉之助訳, 1999, 『プリニウス書簡集』, 講談社学術文庫 ……これは, 選集なので, 第7巻17(原典では27)幽霊, p. 293. 「帳面 (ceris)」と「鉄筆 (stilo)」と訳されています. それで, この「帳面 (cera: 蠟)」と「鉄筆 (stilus: style の語源)」は, 何だろうと思って参照したのが, 次の書物です.

25 グロリエ, エリク・ド, 1992, 『書物の歴史』, 大塚幸男訳, 文庫クセジュ, 白水社, pp. 20-21.

Q.4 筆記体は習ったことがありませんでした. 江熊の所にある美容室知っています. 気にしたこともありませんでした. 今度見てみます.

日本語では修辭の際に行書を使いますが, 硬筆の際にはあまり使わないと思います. それはなぜなのか気になりました.

30 A.4 後半については, 筆記用具の特性と, 書体の適合性の問題だろうと思います. 毛筆は, はねやはらいなど, 楷書の他に, 行書や草書に適しているように, 万年筆やつけペンのペン先にも, スタブとって, 縦線は太く, 横線は細く書けるペン先の形状があり, これは, アルファベットの文字を書くのに適しています. カリグラフィという装飾文字を書く分野があります.

35 Q.5 筆記体の話ですが, 私は中学の頃から英語の授業を受けてきましたが, ブロック体ばかりで筆記体の書き方などは紹介もされませんでした.

見やすい, 文字を判別しやすくするためにブロック体のみを扱うようになったのだと思いました.

Q.5' 筆記体は中学校で1度授業がありました. その1度で筆記体を会得することはなく, こんな書き方もあるんだな, と感心しただけでした.

40 Q.5'' 筆記体について, 小学校か中学校かで存在を教えられた, きりです. 高校で, ALT⁵の先生が来た時に, 筆記体でアルファベットを書いてみましょう, と言われて, かなり苦勞した覚えがあります.

⁵ALT=Assistant Language Teacher, JET プログラムによる. JET=The Japan Exchange and Teaching Programme (赤井註).

A.5 それでは、練習として、この Q & A の質問・感想用紙には、氏名は、毎回、漢字とローマ字（筆記体）で書くことにしましょうか。

Q.6 僕は中学の英語の時間に筆記体を習いました。国によって筆記体の書き方が違うのが驚きでした。

5 A.6 文字の形だけでなく、書物の書式なども、違いがありますから、これから、注意してみてください。

Q.7 「アリストテレス論理学」について今ほど深く分かっていなかったために、「浅はかな武器」とされた部分を見て、アリストテレスに少し同情しました。研究を重ねて先代の哲学者の思想をちゃんと理解するには何百年も時間がかかるのだと思いました。

10 A.7 ホワイトヘッドの場合は、19 世紀末から 20 世紀前半にかけての、イギリスのインテリの標準以上のものがあつたと思いますが、それは、ギリシア、ローマの古典期の文献と、近世以降の文献が中心で、いわゆる中世の文献の研究が今程進んでいなかったことが影響しているのだと思います。

科学哲学・科学思想史 第13回 (2017.01.17.)

Q.1 記号化した文章中に出てきた「〜」は、余事象「 」と同じ記号であると理解してよいのでしょうか。

A.1 よい場合もありますが、使われる文脈が違うことを意識したほうがよろしい。説明で使った〜は、単純に、「否定」記号です。余事象というのは、集合を問題にするときに、全体が決まっている中で、何々でない、他の（つまり、余りの）事象、という表現ですから、論理学で使われる記号は、学派によって異なっていて統一されていませんから（大体、似ているので、分かりますが、紛らわしいものもあるので）、某大学での私の論理学の授業では、記号法の主な違いも説明しています。（資料参照）

Q.2 やっと中間レポートが終わりました。最終レポートなるべく早く提出したいです。

A.2 そうして下さい。

Q.3 生協の集いは、普段話さない人たちの意見を聞くことができ、よい刺激を受けました。

A.3 そうですね。実際、組合員の集い、というよりは、留学生の集い、という感じでしたね。

補足：予備レポートへのコメント

予備レポートを読んで、気づいたことを以下に記します。

1) 書誌情報は、レポートの末尾に、文献 と表記して書いてください。（参考文献 としないほうがよいのは何故か、考えて下さい。「参考」の意味が曖昧です。剽窃してしまっている、という自覚なしに剽窃してしまうきっかけ、落とし穴？ がここにあります）

2) 配布した資料（ホワイトヘッドの文献）は、原典（英文）のほうは、*Adventures of Ideas* だけが収録された単行本、邦訳は、中央公論社の「世界の名著」というシリーズの『ラッセル ウィトゲンシュタイン ホワイトヘッド』という単行本の中に含まれる一部分です。図書館（やOPAC）でそこまで自分で調べて、正確な表記をすることを期待しましたが... 期待し過ぎでした。

ホワイトヘッド, A. N. 1971. 「観念の冒険」. 種山恭子 (訳). 山元一郎 (編). 『ラッセル ウィトゲンシュタイン ホワイトヘッド』所収, pp. 488-537. 中央公論社.

Whitehead, A. N. 1933. *Adventures of Ideas*. London: Macmillan/New York: The Free Press.

邦訳の場合、『観念の冒険』だけが収録された単行本ならば、これが書物なので、『観念の冒険』と表記しなければなりません。配布した資料の場合は、『ラッセル ウィトゲンシュタイン ホワイトヘッド』という書物の一部分なので、暫定的に、「観念の冒険」と表記しています。しかし、原典の、*Adventures of Ideas*（欧文の書物の書名は、このように、イタリックにする。何か特別の理由がないかぎり、他の箇所でも、イタリックを乱用しないこと）の翻訳としては、『観念の冒険』と表記することになります。また、引用符（『 』や" "など）は、それぞれの言語に固有の文字と同じものですから、異なる言語のものを混用するな！ と言っておきます。日本語は、すでに、日本だか中華だか分からなくなっていますので、"中華料理"というような表記も行なわれていますが、欧文に日本語の引用符を付けるのはやめてください。『*Adventures of Ideas*』と書いているようでは困ります（誰が?）。これは、書名ですから、*Adventures of Ideas* と書かなければいけません。

さらに、この邦訳は、『観念の冒険』の部分は、部分訳で、pp. 431-537 にわたります（配布したのは、その後半だけ）。従って、そこまで調べがついていたら、ページ数の部分は、pp. 431-537 とするほうがよいでしょう。その上、最初、1971年に、「世界の名著 58」として出版されましたが、「世界の名著」というシリーズが、拡充され、ペーパーバックで、1980年には、同じものが、改めて、中公バックス「世界の名著 70」として出版されました。そこまで表記すると（厳密には、使用した文献をつきとめて表記しなければならない）、次のようになるでしょう。

ホワイトヘッド, A. N. 1971. 「観念の冒険」. 種山恭子 (訳). 山元一郎 (編). 『ラッセル ウィトゲンシュタイン ホワイトヘッド』 (世界の名著 58) 所収, pp. 431–537. 中央公論社.

5 ホワイトヘッド, A. N. 1980. 「観念の冒険」. 種山恭子 (訳). 山元一郎 (編). 『ラッセル ウィトゲンシュタイン ホワイトヘッド』 (中公バックス世界の名著 70) 所収, pp. 431–537. 中央公論社.

このように、レポート末尾の文献に書いておけば、本文中で、間接引用、直接引用するときには、引用の直後に、(ホワイトヘッド/種山恭子訳『観念の冒険』, p. 494 上段) または、(ホワイトヘッド/種山恭子訳『観念の冒険』, p. 494 上) 程度の記述で十分です。

3) 文献表では、著者名を、Whitehead, A. N. の順で書きますが、本文や、註の中では、A. N. 10 Whitehead の順で書くのがルールです (英語圏なら、*MLA* や *Chicago Manual of Style* を探して読め!). 本文や、註の中でも、Whitehead, A. N. のままになっている情けない本も出版されていますが、他にも、もろもろの表記の仕方については、高橋祥吾君作成の「引用の作法について」全 13 ページをすみからすみまで熟読して下さい。

15 西洋古代哲学史概説 (前期) / 西洋中世哲学史概説 (前期) / 科学哲学・科学思想史 (後期) の講義共通 Web サイト、「各講義・共通」→C9「引用の作法について」(高橋祥吾氏作成): pdf ファイルへ

20 しかし、何より、間接引用のほうが、直接引用よりも難しいので、一定の訓練をしないと正確な間接引用はできません。ごちゃごちゃ言っていないで、例を示すほうが分かりやすいでしょう。同じ文献を繰り返し引用するときは、二回目以降は、(前掲書, p. 514 上) のように書くこともできますが、繰り返し、略さないでフルに情報を書いてもかまいません、というより、誤解をさけるためには、繰り返し書いたほうがよろしい。

25 ホワイトヘッドによれば、「自然の法則」に関する説としては、法則を内在するものとする「内在説」、法則は課せられたものとする「賦課説」、法則は観察された継起の順序であり、単なる記述だとする「記述説」、そして、法則は規約による解釈であるとする「規約説」の四つがあるという (ホワイトヘッド/種山恭子訳『観念の冒険』, p. 499 上)。しかし、この四区分は、排他的なものではないらしく思われる。というのも、別の箇所では、ホワイトヘッドは、プラトンの宇宙論は、「賦課説」と「内在説」を融合させ、エピクロスの原子論は、「賦課説」と「記述説」を融合させるのに役立っている、と言っているからである (ホワイトヘッド/種山恭子訳『観念の冒険』, p. 514 下)。

科学哲学・科学思想史 第14回 (2017.01.24.)

Q.1 エレベーターの、キャンセルできる機能には驚きました。またやってみます。英語の引用文献はとても細かくて、ここまで決まっているものなのか、と思いました。卒業までには身につけていきたいです。

5 A.1 エレベーターのことは、他の人がいるとき、急いでいるときには、試さないで下さい。書式を守っていないと、内容にかかわらず、そもそも受け付けられない、という契約社会の産物ですね。

Q.2 この授業だけでなく、今後の大学生活でも必要になることだと思うので、レポートの正しい書き方を習得したいです。

A.2 習得（修得）してください。

10 Q.3 中間レポートでは、引用等間違いが多くあったので、今後はこの間違いを活かしてレポートを書けるよう気をつけたいです。

A.3 そうしてください。

Q.4 インド哲学の卒業論文を読むと、多くの人が「参考文献」と書いていることに気がつきました。他の部分も観察してみます。

15 今回のレポートは TeX で挑戦してみます。

A.4 TeX で挑戦してみてください。

「参考文献」という表記については、「参考」の意味が問題なのですが、「文献」と表記しようと、「文献表」と表記しようと、また、「引用文献」でも、「参考文献」でも、いずれでも、正しく、直接引用、間接引用し、盗用や剽窃をしていなければ、問題はないと言えるでしょう。しかし、「参考」という言葉が、無意識のうちに、剽窃や盗用を誘発するのではないかと、私は、疑っているのです。これについては、2015 年度前期・西洋古代哲学史・コメント 第15回 (2015.07.23.) の p. 41, Q. 9 と A. 9 で扱っていますから、過去の授業の Q & A を読んでみて下さい。

25 Q.5 コメントシートでも述べられていたが、間接引用は本当に難しいと思った。他人の意見（引用）と自分の意見を読んでいる人にも分かるように見目で分類できているかを意識したいと思う。

30 A.5 Q.5 の言う通りで、最初は、直接引用をして、他人の意見（引用）を明示し、それに対する自分の考えを地の文で書く、という仕方でレポートや論文を書くのがよいかもしれません。間接引用か直接引用かは、扱う内容や、自分の論述にとっての重要度によって使い分けることになるでしょう。何よりも、自分の専門分野での先行研究（先生たちの書かれた研究書や専門誌の（雑誌）論文）を読んで、その書き方を真似ることです。

そこで以前から気になっているのは、「～新書」とか「～選書」などの、専門書というよりも、一般向けの啓蒙書の類では、はっきり直接引用していても、分量の関係で、書名は書かれていてもページ数まで書かれていなかったり、間接引用しているようにみえても、一切、注記がなかったりしますが、それらは、学術文献とは見なされないのだから、レポートや卒論で、そういう書き方を真似してはいけません。もちろん、その本（「～新書」とか「～選書」など）の書誌情報（著者名、書名、ページ数、出版年、出版地：出版社）を明記して、それらの本から、引用することはできます。大体、そういう本を書いている人は、その分野の専門家のはずなので、注記していなくても、ここの記述は、何を根拠にこう書いているのですか？ と質問すれば、これこれの文献の何ページにこうある、と答えられるはずですが、もっとも、その人がまともな研究者ならば、ですが。

40 Q.6 1年生のころ、日ごろ気になったことをメモしておく手帳をつけていたのを、エレベーターの話聞いて思い出しました。

例えば、「わんぱく（腕白）」という言葉について、子どもなどが活発な様子を表すのなら、「腕・白」ではなくて「腕・褐色」などが適当なのでは？ といったようなことを書いていました。今はめっきる書かなくなっていました。

A.6 また、書いてみてはどうですか？

因に、私は専門じゃないのでわかりませんが、実は、独断専行の意味の「関白」の「関」の音のひとつが「ワン」で、「腕」はその当て字らしいので、こどもの「うで」のことを言っているのではなく、従って、「白」も、うでの色ではないらしいですよ。（以上のことは、某『国語辞典』レベルの⁵情報です）

科学哲学・科学思想史 第 15 回 (2017.02.07.)

2017.01.31. (火) は, (金) の授業.

Q. 1 期末レポートを作成しながら、テキストを読むことの難しさを実感しています。ホワイト
ト (ヘッド) は抽象的な表現が多いので、何を意味しているのかを自分の頭で理解し、文字で表
5 現することが難しいです。

私も「専門はあるけどないスタイル」を見習いたいです。変な壁をもうけないことは視野を広
げると思います。だからといって、専門をおろそかにしてはいけないのですが。

A. 1 最後の一言、今や、自分の専門が何だか、わからなくなってしまった私への、おしかり、
としてありがたく受けとります。

10 Q. 2 「引用」と「参考」をはっきりわけるのはたしかに言われてみればむずかしいと思った。
正直今までそんなに気にせずに書いていたけど、気をつけてかいてみようかと思いました。

A. 2 前回の Q. 4 にもあったことですね。そこでも書きましたが、2015 年度前期・西洋古代哲
学史・コメント 第 15 回 (2015.07.23.) の p. 41, Q. 9 と A. 9 で扱っていますから、読んでおいてく
ださい。

15 Q. 3 短い間でしたがありがとうございます。最終レポートがんばります。

A. 3 はい。頑張ってください。最近は、「がんばらなくていい」というのも流行っているよう
ですが、「頑張る」は、もともと、「眼 (がん, 目) 張る」で、「目をかっつと見開いて、自分で自分
に気合いを入れる」というような、自発的動作を示す自動詞なのでしょうから、私なんぞが、「頑
張ってください」というのは、余計なことなのですね。自分で思うように自由にやってください。

20 Q. 4 窓側にある機械の正体が分かってすっきりしました。

私は Google で検索してみましたが、分かりませんでした。先生のように人に聞いてみる、とい
うのも調べ方としてあるのだし、分からないことや疑問に思ったことを、結果が出てくるまで疑
問に思い続ける心を持ちます。

A. 4 そうですね。「疑問に思い続ける心」をもってください。今はわからないけれども、何故
25 だろうか、という気持ちを持ち続けるには、エネルギーが必要です。このことに気づくことは、私
のつたない講義内容よりもはるかに大切なことです。

Q. 5 他の授業で、ヘーゲルの美学をやったのですが、レポートを書くときかなり困りまし
た。というのも、授業で主に扱ったのが『美学講義』で、ヘーゲルの大学での講義 (ママ, 義) を
受講生がまとめたものだったので、文献欄にどう書いたらよいのか分からなかったのです。この
30 文献は、ヘーゲルの思想だとして引用してもいいものなのでしょうか。また、著者として誰だと
すべきなのでしょうか。

A. 5 文献欄には、その授業で使用したテキストの表記通りに書いておけばよいでしょう。
Suhrkamp の版を使ったのなら、長いですが、詳しく書くと以下のようなになるでしょうか。

Hegel, G. W. F., 1970. *Vorlesungen über die Ästhetik III*, in G. W. F. Hegel, *Werke in Zwanzig Bänden*,
35 *Auf der Grundlage der Werke von 1832–1845 neu edierte Ausgabe* Redaktion Eva Moldenhauer und Karl
Markus Michel, Frankfurt am Main: Suhrkamp.

これによって、もとはヘーゲルが口頭で講義したものを聴講者がノートし、それらに基づいて、
E. Moldenhauer と K. M. Michel が編集したものであることがわかります。

ところで、素朴な疑問なのですが、ヘーゲルの美学について論じている研究論文や本では、ど
40 のように記載されているかを調べてみて、それに従おうとは思わなかったのですか？

Q. 6 私の中でずっとある疑問なのですが (おそらく周知のこととされている) 事実をレポート
に書くときも、文献を参照しなくてはならないのでしょうか。

例えば、「2016年、リオでオリンピックが開催された」という議論の余地がない事実を明記する際も、何らかの文献から引用するという型式をとらなくてはならないのでしょうか。

歴史を扱うレポートを作成するときに、いつもどこまで引用すべきなのかの線引きが分からなくなるので教えてください。

- 5 A.6 書き手が、周知の事実と認識している事柄であれば (Q.6が例に挙げているような、「2016年、リオでオリンピックが開催された」はこれにあたります)、そのまま書けばよろしい。しかし、ある文献の記述そのものを問題とするときは、その文献を示して、引用する必要があります。過去の事柄に言及するときには、人によって、その事柄についての認識が異なる場合がありますから、その異なる認識を問題とするときには、それぞれの認識を示す文献を明示して引用する必要があります。
- 10 例えば、「ロシア革命はいつから始まったか」ということについては、何をもって「ロシア革命」の始まりと看做すか次第ですから、それぞれの典拠となる文献を示す必要がありますが、「ロシア革命の始まりはいつか」がテーマでないならば、その必要はありません。

レポートの文体について（補足）

「よって」の意味については、すでに言及しましたが、一般に、接続助詞、接続詞の有無と、意味、ニュアンスの違い、というよりも、読み手に与える印象に配慮して下さい⁶。言い換えると、みなさんの年齢の人たちどうして通じる「ことばづかい」ではなくて、自分より年配の人に読まれることを想定して書け！ということですよ。

具体的な例をあげると、この Q. & A. でも、「ある意味」という表現が使われることがありましたが（実際、他の文献でもよく見かけます）、「ある意味」は、これ自体では、名詞であって、口語では、ドイツ語の 4 格（対格）副詞のように、副詞的に「ある意味では」とか「ある意味で」というイミで使われています。それなら、「では」や「で」を略さずに、全部書け！ということですよ。年配の読み手は、「ある意味」を、頭の中で「ある意味では」と補って理解しています。こういうことを読み手にさせるのは、読み手に charity を要求している、といいます。それが文学作品で、作者が意図して使っている手法であれば、それを使うのは作者の自由ですが、レポートや卒論などの学術論文では、余計なことであり、読み手に charity を要求するようなことをするべきではありません。そういうレポートを採点する立場に私があれば、減点します。この種の表現については、谷崎潤一郎の『文章読本』（中公文庫）を、まだ、読んだことがない人は、死ぬまでに一度は、それもできるだけ早いうちに手にとって読んで下さい。

次に、おそらくは、パソコンやワープロの漢字変換のせいで、やたらと何でも漢字で書く傾向がありますが、かつては、そして、いまでも、次のような原則に従って書いている人たちがいます。

動詞についてですが、動詞の目的語になる名詞が具体的な場合は、動詞も漢字で、抽象的な場合は、動詞は平仮名という区別です。例えば、次の例を見て下さい。

手に小旗を持つ。／ 寛容な心をもつ。

というように、です。この区別は、ある時期までの書き手によっては徹底しているので、他人の書いたものを読むときに、注意してみてください。ワープロやパソコンの使用が広まるにつれて失われつつあるのが実に残念な区別です。

なお、日本語の表記、表現、特に格助詞については、

横井忠夫、1971、『誤訳 悪訳の病理 ミスを防ぐための α から ω まで』、現代ジャーナリズム出版会

の p. 150 などを参照。この本は、後に、違う出版社から再刊されていますし、図書館にも数冊あるようです。他に、

・ W. A. グロータース／柴田武、『誤訳 ほんやく文化論』、昭和 42 年、三省堂新書 4。

・ 藤井一行、『翻訳の品格 "新訳"にだまされるな』、2012、著者自家出版会。

⁶ 例えば、「実際」「実際に」「実際には」は、全部、意味合いが異なりますが、使い分けられますか。自分で使う前に、他人が書いた文章に出てくる場合、これらを読み分けることから始めるべきですが、ついでに、みなさんが、この Q. & A. に書く表現の中で気になっていることのひとつは、「文」と「文章」を区別していない人がいることです。ひとつの「文」を「文章」と言っている場合が目につきました。「文章」は、いくつかの「文」が集まったもの、という定義があります。